

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的事項を身につけさせる指導の継続
- 児童が意欲的に取り組める課題を設定し、見直しをもって学習できる授業の実践

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員** 委員校長：西岡田章，教頭：篠原義正，教務主任：河野通之
 1年主任：小田由里香，2年主任：村岡さお美，3年主任：野々村歌織
 藤森 麻衣子 4年主任：藤森麻衣子，5年主任：竹岡伸一，6年主任：福家嘉世
 特別支援教育コーディネーター：住友章芳，仲西佑香

校長

西岡田 章

【各校の取組状況の把握について】

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○小テストや単元テストでは、基礎的基本的な漢字の読み書きや計算等、ある程度の定着が見られる。 ●文章を正確に読み取ったり、習得した知識・技能を実生活の中で活用したりすることができない児童が多い。	・学年相応の基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・文章の内容を正しく理解し、読み取ることができる。 ・身に付けた知識・技能を様々な場面で活用したり応用したりすることができる。	・確認テストやタブレットでのドリル学習、読書活動等を計画的に取り入れる。 ・大事などころを捉え、印をつけたり、絵や図に表したりする習慣がつくよう繰り返し指導する。 ・様々な学習活動や日記指導の中で、主語と述語の関係や言葉の使い方、既習漢字の活用等を指導する。	継続	・基礎的・基本的な漢字や計算が80%達成できている児童が7割程度に達しており、おおむね目標は達成できた。 ・日記指導で既習漢字の使用や主述のねじれが改善されてきた。 ・大事などころに印をつけたり絵や図に表したりすることや読み聞かせ活動などを通して、文章を読み取る力が向上した。	・学習の隙間時間を構造化し、漢字ドリルやタブレットドリルなど個別の課題に合わせて取り組めるものを複数提示する。 ・朝活で「話す聞きの日」を設けたり、漢字や計算のミニテストを繰り返し行ったりするなどし、知識・技能の定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自信のある時や小集団での活動の時には、自分の意見をしっかりともち、意欲的に表現することができる。 ●根拠をもとに話したり、目的や意図に応じて書いたり、話したりすることに自信がない児童が多い。	・話し手の意図を考えながら、相手の話を最後までしっかりと聴くことができる。 ・根拠や理由を明らかにし、相手意識をもって話したり、書いたりすることができる。	・「あったかいおへそで聴こう」を実践し、最後まで話をしっかりと聴く習慣を指導する。 ・グループ学習や他学年との交流等の協働的な場を設け、個々に表現し、活躍する場を増やす。 ・ICTやホワイトボードを効果的に活用した発表や話し合い活動を取り入れる。	継続	・「あったかいおへそ」は意識づいてきており、最後まで話を聞いて考える習慣が身に付いてきた。 ・協働的な場を設定することで、自分の考えを書いたり、発表したりすることができる児童が増えた。	・教師の発問を工夫する。 ・表現方法のモデルを示すことにより、多様な表現(話す・書く・用具を使う・身体表現等)ができるようにする。 ・読書や音読、体験活動等を通して、児童が思考するときの基礎となる知識を得られるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題やパターン化されたドリルなどに関しては、真面目に取り組むことができる。 ●困難な課題に消極的で、最後までやり抜こうとする粘り強さに欠ける。	・学習のめあてを意識して取り組み、学習したことを振り返って次に生かすことができる。	・児童とともに、単元のゴールや課題を設定する。 ・児童の頑張りを称賛したり、紹介したりする場を設定する。 ・「家庭学習の友」を活用し、家庭と連携する。	継続	・児童と単元のゴールを決めることができ、めあてを意識して学習できていた。 ・頑張りを賞賛したり、紹介したりすることにより、自主学習の質が向上した。 ・「家庭学習の友」の活用が年々定着してきている。	・主体的に活動できる学習内容、場の設定等を探究していく。 ・他学年間で、自主学習等の児童の頑張りを共有する。 ・継続して「家庭学習の友」を活用し、家庭と連携する。

令和5年度 学力向上ロードマップ

